

海外のシニアライフって？

OVERSEAS REPORT vol.5

from India

海外レポート最終回は、インド政府に勤めながら、立命館アジア太平洋大学の客員教授もこなすアショク・チャウラさん(52歳)によるインド介護事情の続編。今回は、インドの福祉施設の様子などをお伝えしますので、皆さんもぜひ一緒に考えてみてください。



高齢者の医療と介護についての簡単な解決法はないといってもいいでしょう。介護は家族や親戚関係の責任、つまり、もともとあった社会制度がなくなりつつある中、非政府機関の役割が問われています。インドはカーストと宗教をベースにした社会ですので、その組み合わせで作られた福祉施設が多くあります。例えば、商売主流のアッガルワール※1というカーストやジャイナ教の場合、アシュラム(ヒンドゥー教の修行道場)といった施設が数え切れないほどあります。シーク教の場合、かなりの寺院で無料で泊まったり、食事をすることができます。そして、地方へ行くと、それぞれの地域では、そこで盛んな宗派の崇拜施設の中で泊まれるところがあります。

こういった施設のいくつかは宿泊や飲食ができるだけでなく、介護サービスも提供されています。これらの簡単な介護施設は都会から離れた村の

近くでは数百万円で作れるため、利用する高齢者が20人位いれば経営が成り立ちます。サービスと維持管理の年間費用は5~600万円。数人が働けば間に合う金額です。経営とサービスの質は問題ですが…。数十年前まで盛んだった思いやりのサービス精神に、近代的なシステムと良き経営を加えれば、この悪化しつつある課題を克服することができると思いますが、インド人は、問題がピークにならないと動かない面があります。前回ご紹介したように、ホームレスは認められていても普通の家庭から高齢者がでていくこと、または他人のヘルプを求めることは社会的にも親戚の間でもタブーとされています。

そのせいかもしれません、政府提供の施設もそう多く使われていません。各州政府は例えば、冬になると寒さで介護されている人が犠牲にならないように、ラエン・パセラという夜

幸せに生きるために！ 伝統と宗教がからみあうインドの福祉事情

泊まれる安宿を作っています。デリー市のこの施設に数回訪問してみました。ほとんどガラガラでした。ある施設の周りを見るとスラムがたくさんあり、病気を抱えていた高齢者に聞いてみたら、施設もよいが、やはりマイホームの方がいいと言われました。調べてみたら、このような施設は部屋だけが広くて布団類もその他のサービスもよくなくて、夜は過ごしにくい面もあるようです。



これらの改良版も考えられています。例えば、インド中部のマドヤプルデーシュ州は10万人の人口に対して、必ずラエン・パセラを一軒作ってそこで安値で食事まで提供しようという計画が発表されています。ラエン・パセラは一泊4円、あと10円払えばラームローティー(神からのご飯)という弁当がもらえます。この弁当はチャパティー(ナン類)6枚、ドライ野菜カレー、つけ物のピクルスに玉ねぎ、獅子唐のサラダと、30円以上もかかる中身となっています。この概念を効率よく実行するためにはNGOと共同経

営の可能性も考えられます。数は少ないですが、すでにいくつかのラエン・パセラで宿泊者に対して毛布以外に飲み水とお菓子が配られているそうです。もちろんシャワーもあって、新聞提供とテレビ視聴が可能になるそうです。

しかし、このような施設はこれまでの歴史からみても持続可能なものにはなっていないですし、介護までのサービスはほとんどありません。食事代と薬の実費に加えて、ひと月1万円程度の費用でしたら多くの利用者は助かると思います※2。やはり、昔のインドの伝統とうまい具合に組み合わせ、日本の介護施設概念をインドにも導入できたらと思います。

※1アッガルワールはインドで超リッチクラスの商人カースト。ヒンズー教では、自分より貧しい人々に何かやってあげなければならないという教えがあり、このような活動を集団的にやる効果は大きい。
 ※2施設のコストはとても高く、特に土地が高い。建物の建設コストは20人分の建物であれば約4~500万円。全体のランニングコストは1人当たり約1万円。介護員5人、門番、事務など計8名ぐらいの給料に電気代、水など、月20万円くらいかかると想定される。

プロフィール:
 デリー大学卒(植物学)、ネルー大学卒(日本語修士)後、文部省の国費研究生として日本の東京大学、国立国語研究所に留学。現在インド国立科学コミュニケーション情報資源研究所(NISCAIR)の教官。立命館アジア太平洋大学客員教授。工業通訳としてTQM やデミング審査にも携る。著書・論文多数。親道家。

障がい者のための国際交流フォーラム

ビッグ・アイ フォーラム

昨年12月25日、クリスマス寒波が日本に襲来。そんな中、国際障害者交流センター ビッグ・アイには、関西はもとより、北は秋田、西は長崎と全国各地から総勢92名の皆さんが集まりました。この日開催した「ビッグ・アイフォーラム」では、中国と台湾からもゲストスピーカーをお招きし、障がい者の海外旅行や海外での国際交流の様子、音楽祭を通しての国際交流など、様々な場面での国際交流・協力のお話をいただきました。

各セッションルームでは、興味深く、そしてためになり、それでいて楽しいお話をお聞きすることができました。秋田からお越しのAさん。寒波のため夜行列車が運休してしまい、当日、新幹線を乗りついで、フォーラム終了30分前にお越しいただきました。この情熱にスタッフ一同感謝です。フォーラムの様子や、講師のお話は、ビッグ・アイホームページに近日アップ予定です。

ビッグアイ 検索 <http://www.big-i.jp/>

参加者の声

- 生きることを楽しみ、楽しみながら生きる力を持つアートや旅行に感銘!
- いろんな価値観や異文化に触れることは、相手を理解することに繋がる。
- 講師の皆さんの「生き方」に感銘し、大いに力を与えてもらった。

終り後の交流会も大盛況!

7人の講師によるフリートーク

セッションルームの様子

なにわなんでも® 大阪検定

問題に挑戦!

A 大阪府下で唯一、重要伝統的建造物群保存地区に選定されたまちなみをもつ、寺内町として知られる南河内地域の市はどこでしょう?

①大阪狭山市 ②貝塚市 ③河内長野市 ④富田林市

B しゃぶしゃぶは、現在も大阪市北区曽根崎新地に本拠を構えるスエヒロが考案した料理と言われています。この料理のヒントになったとされている料理とは何でしょう?

①韓国のチゲ鍋 ②沖縄のヒージャー汁
 ③タイのタイスキ ④中国新疆ウイグル自治区の鍋料理

▶解答は下に表記◀

出典：大阪商工会議所「第1回大阪検定」より
 お問い合わせ：なにわなんでも大阪検定事務センター
 TEL 06-6452-7728 (平日10:00~17:00)

夫婦一緒にこれからも…

おおさかシニアサポーターバンクの活躍⑤ 笑楽&笑っていただきましょう会

「荷物重いやろ、車で送ったろか」という優しい夫の言葉に甘えて、南京玉すだれやマジックなど仲間と一緒に活動されていた、「笑楽&笑っていただきましょう会」の長野貴美子さん。ある日の貴美子さんの「ちょっと、尺八吹いてよ」の一言から始まった夫婦での活動。今ではすっかり夫の隣さんもはまっています。

夫婦が同じ笑いの空間にいることを実感したとき、「一緒にいるはずなのに、仕事と家事、それぞれが歩んできた道は違っていたんだ」とも思い、そして、今は大変幸せな時間を過ごしているんだと感じているという長野さんご夫妻です。一緒に活動していて、やっぱり「喧嘩はありません」「互いにアドバイスができてありがたい」「90歳になって“笑っていただきましょう『夫婦漫才』”でも出来たらいいネ」と楽しく会話をする毎日です。

一緒に笑って長生きしましょ!

読者の宝箱 第五回

みなさんの「宝物」をご紹介します!

絵や写真、引き出しに眠っているラステラー、思い出の品々…

手作り京扇子

吉田喜美子さん

平成19年ごろ、趣味の海釣りを須磨でしたとき、青べら、赤べらを釣り、何かの形で残せたらと思っていましたところ、ファインエイジの会のイベントで『京扇子創作体験』というのがありました。

私は是非このイベントに参加し、自分が創る扇子に描こうと下絵描きした後、そのお店から包装した扇子が届きました。その絵柄の出来栄が気に入って、それ以来私の大事な持ち物の一つです。

夏には心地良い風を受けて癒され、年月が経つとその扇子を広げる毎に、それにまつわるいろいろの事が懐かしく思い出され、その『創作体験』が数ある楽しいイベントの一つでもあり、この京扇子は私の思い出がいっぱい詰まった大事な宝物になっています。